

2020年東京オリンピック・パラリンピック 競技大会に向けた大学への期待

田中 聡明

● 文部科学省スポーツ・青少年局競技スポーツ課オリンピック・パラリンピック室長

1 オリンピック・パラリンピックムーブメント

2013年9月にアルゼンチン・ブエノスアイレスで開催された国際オリンピック委員会総会において、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京大会）の開催都市が東京に決定した。その後、担当大臣の発令や閣僚会議の設置などの政府の体制整備、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）の設立、東京大会の準備・運営に必要な特別措置（内閣への推進本部の設置と国務大臣の増員、組織委員会への国の職員派遣、大会を記念した寄付金付郵便葉書などの発行、国有財産の無償使用など）を定めた法律の成立など、東京大会の開催に必要なさまざまな取り組みが行われている。

オリンピック・パラリンピックは、単なる一過性のス

ポーツイベントではなく、オリンピック憲章では、オリンピックイズムは「肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学」であり、「スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探索するものである」とされている。また、オリンピック・ムーブメントの目的は、「オリンピックとオリンピックの価値に則って実践されるスポーツを通じ、若者を教育することにより、平和でより良い世界の構築に貢献すること」とされている。すなわち、オリンピック・パラリンピックは、世界の平和に向けて活躍できる人材の育成なども含め、大会終了後も有形・無形のさまざまなレガシー（遺産）を創出し、社会の発展や変革を引き起こそうとするものである。

このため、開催地である東京のみならず、日本全国で東京大会に向けた機運を醸成し、オリンピック・パラリ

ンピックムーブメントの拡大を図り、東京大会の開催効果を全国津々浦々に波及させることが求められる。そのためには、児童生徒・学生に対する教育や社会における普及啓発が重要であり、文部科学省では、今年から、大学も含めた学校関係者、スポーツ関係者、メディア関係者など多様な方々で構成される「オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議」（以下、有識者会議）を設置し、無形のレガシーの創出という観点も踏まえつつ、日本全国各地にオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを普及させるための方策について検討を行っているところである。

2 大学に期待される取り組み

有識者会議では、初等中等教育や社会教育における取り組みも含めた幅広い議論が行われているが、この原稿を執筆している時点では議論のとりまとめの段階には至っておらず審議中の状況である。しかしながら大学に関する意見や議論も出されており、以下は、執筆時点までの有識者会議での関係する意見も踏まえて、大学に期待される取り組みを記述させていただく。

まず、大学は、当該大学において行われるオリンピック

ク・パラリンピックに関する教育研究の推進と、さまざまな人々や関係機関で行われる取り組みへの支援が期待されると考えられる。

学生に対する教育については、各大学の状況や学問分野の特性なども踏まえながら、オリンピック・パラリンピックに関する教育が幅広く行われることが期待される。特に、体育教員をはじめとする教員養成に関わる学部や課程などにおいては、オリンピック・パラリンピックへの理解のみならず児童生徒への指導方法なども含めた教育の充実を図ることが求められる。また、教員養成学部以外でも、一般教養課程においてオリンピック・パラリンピックへの理解を深める学習機会の充実や、学部専門教育におけるオリンピック・パラリンピックを題材とした学習の工夫（例えば、国際系学部における国際専門教育においてオリンピック・パラリンピックのエピソードを題材に活用するなど）が期待される。

また、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義に関する研究は、オリンピック・パラリンピック教育の充実に直接つながるものであり、大学における研究の充実が求められる。さらに、トレーニングやコンディショニング、競技用具など、競技力向上に関する研究開発は、オリン

ピック・パラリンピックにおけるアスリートの活躍につながるものであり、アスリートの活躍やエピソードなどは児童生徒にとって生きた題材となることから、オリンピック・パラリンピック教育の充実の観点からも競技力向上に関する研究開発の推進が期待される。

さらに、大学の使命・役割として教育研究に加えて社会貢献が求められている中で、自らの教育研究の充実に加えて、当該大学の学生以外の多様な者に対する幅広い学習機会の提供や、初等中等教育機関や地域社会において行われる取り組みへの支援が求められる。

例えば、文部科学省では、本年度から、初等中等教育などにおけるオリンピック・パラリンピック教育の全国展開のための効果的な手法を研究開発するために「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」を実施している。この事業は筑波大学に委託して実施しており、筑波大学は、これまでの教育研究の成果を生かし、拠点機関として、汎用性の高い実践的教育モデルの考案、教員を対象とする効果的な研修方法の開発、地域におけるネットワークの構築と情報発信・集約などに取り組みとともに、関係教育委員会などと連携して、モデル地域の教育現場（初等中等教育機関）において具体的

な教育実践を行うこととしている。このような取り組みも参考に、各大学は、初等中等教育機関や社会教育施設、地域の関係団体と連携しながら、それぞれの地域のニーズや取り組みに応じた支援の充実を図ることが期待される。

さらに、文部科学省は、外務省や日本スポーツ振興センターなどの関係機関と連携しながら、2013年9月の国際オリンピック委員会（IOC）総会で安倍総理が表明した「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムを推進している。このプログラムは、東京大会の開催国として、世界のよりよい未来のために、あらゆる世代の人々にスポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていく取り組みであり、2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100か国以上で1000万人以上を対象に、スポーツを通じた国際協力・交流、国際スポーツ人材育成拠点の構築、国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化・支援などを進めるものである。その推進にあたっては、政府などの取り組みのほか、民間セクターをはじめさまざまな取り組みと連携協力することが重要であるため、幅広くスポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム

2020年東京大会の概要

第32回オリンピック競技大会

2020年（平成32年）
7月24日（金）～8月9日（日）〈予定〉

28競技（予定）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車競技、卓球、馬術、フェンシング、柔道、バドミントン、射撃、近代五種、カヌー、アーチェリー、デコンドー、トライアスロン、ゴルフ、ラグビー

※競技の追加については組織委員会の「東京2020種目追加検討会議」にて検討中

第16回パラリンピック競技大会

2020年（平成32年）
8月25日（火）～9月6日（日）〈予定〉

22競技

アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、カヌー、自転車、馬術、5人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、射撃、シットイングバレーボール、水泳、卓球、デコンドー、トライアスロン、車椅子バスケットボール、車いすフェンシング、ウィルチェアーラグビー、車いすテニス

●第30回オリンピック競技大会（ロンドン）

- ・2012年（平成24年）
7月27日（金）～8月12日（日）
- ・204か国・地域
- ・26競技、302種目 参加選手数 約10,500人

●第18回オリンピック競技大会（東京）

- ・1964年（昭和39年）
10月10日（土）～10月24日（土）
- ・93か国・地域
- ・20競技、163種目 参加選手数 約5,100人

●第14回パラリンピック競技大会（ロンドン）

- ・2012年（平成24年）
8月29日（水）～9月9日（日）
- ・164か国・地域
- ・20競技、503種目 参加選手数 約4,200人

●第2回パラリンピック競技大会【愛称】（東京）

- ・1964年（昭和39年）
11月8日（日）～11月12日（木）
- ・21か国・地域
- ・9競技、144種目 参加選手数 約370人

3 最後に

会員を募っており、本年5月末現在で64団体が会員となっている。また、会員が実施する事業を「スポーツ・フォー・トゥモロー・プログラム」として認定する事業認定制度も設けられている。いくつかの大学も会員となって取り組みを推進しており、例えば平成26年度には、国際武道大学によるカンボジアにおける運動会の開催などが認定されている。大学のグローバル化が求められる中で、このようなスポーツにおける国際交流・貢献の充実の取り組みについても、大学の積極的な参画が期待される。

本年4月現在、775大学が組織委員会と連携協定を結んでおり、このことから、全国の大学関係者の東京大会の成功に向けた取り組みに対する協力・参画の意向は非常に高いことが伺える。

このため、これまで述べたような取り組みのほか、文化イベントや事前キャンプへの協力、大会機運の醸成なども含めた幅広い分野で、各大学の自発的な意思と創意工夫に基づく積極的な取り組みが全国各地で行われることを期待したい。